

カズラガイ *Phalium flammiferum* (Röding)

【選定理由】

本種は湾口部から外洋にかけての潮下帯砂泥底に生息する。県内では内湾域の潮下帯の環境は急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も三河湾湾口部から伊勢湾湾口部、渥美外海にかけて操業する底引き漁船により採集されるが、個体数は非常に少ない。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。なお、県内では、近似種のナガカズラガイ (学名不詳) が本種と同所的に生息する場合も少なくないが、より外洋側に生息し渥美外海に主分布域がある。渥美半島外海側の海岸では、ナガカズラガイは多くの個体が打ち上げられる (中山, 1979)。ナガカズラガイは、近年でも底引き網に普通に混獲され個体数も多い。



【形態】

殻長約 8 cm の卵形で、殻質はやや厚く黄色褐色の縦縞がある。殻口は大きく開き、肥厚する。蓋は革質でやや小さく細長い扇形。ナガカズラガイと同種もしくは亜種とする説もあるが、両種は殻の形態で明確に区別され、前述のように分布域にも相違があり別種である。本種はナガカズラガイと比べてやや小型で、殻全体の丸みが強く殻質はやや薄く、殻表面の螺肋は明瞭である。また、本種の縦縞と殻の地色のコントラストはナガカズラガイと比べて不明瞭で、全体的な殻の色彩はくすんでいる。2種の学名には再検討が必要である。

【分布の概要】

【県内の分布】

【選定理由】の項参照。

【世界及び国内の分布】

日本、台湾、国内では房総半島以南九州に分布する。日本海側では本種の個体数が多い。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

【選定理由】の項参照。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

葉山しおさい博物館 (2001) ではナガカズラガイが減少にランクされ、本種は元々きわめて稀な種として対象外になっている。

【引用文献】

葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.

中山 清, 1979. カズラガイとナガカズラガイの殻高と殻径の比と肋数の比較. かきつばた, (5): 3-4.

(木村昭一)